

2019年1月 マネージメント情報

“謹んで新春の祝詞を申し上げます。

顧客農場様のご要望に少しでもお応えできるよう、本年も更なるサービス向上に向け、気持ちを新たに取り組んでまいりますので、お気付きのことは何なりとご指導いただければ幸いです。”

出生子牛へのメロキシカム製剤の投与

カナダの Guelph 大学の研究チームがおこなった興味深い研究を紹介します。

「The Effect of Meloxicam NSAID Therapy on the Change in Vigor, Suckling Reflex, Blood Gas Measures, Milk Intake and Other Variables in Newborn Dairy Calves」

- ・分娩時に強く牽引された子牛は自然分娩の子牛に比べて、元気、活発さ、血中酸素濃度、心拍数などにおいて有意に低下がみられた
- ・分娩時に強く牽引された子牛に、出生直後メロキシカム製剤を 1ml (20mg) 投与することでこれらの症状に明らかな改善が見られた
- ・出生直後メロキシカム製剤を投与された子牛は、投与されなかった子牛にくらべ初乳給与時の乳首の吸引力が強かった
- ・出生直後メロキシカム製剤を投与された子牛は、出生後 1 週令でのミルク摂取量と増体に優れていた

つまり、狭い産道をくぐり抜けてくる子牛は特に強い牽引によって非常に強い痛みやストレスに晒され、そのストレスは出生後の子牛の健康性や初乳摂取などに大きな悪影響をおよぼすということです。

そして、子牛に体調不良の症状が出る前に副作用の少ない消炎鎮痛剤であるメロキシカム製剤を予防的に投与することで、子牛の活力や健康性、ミルクを吸引する力などが改善される可能性があるということを示しているわけです。

特別な難産時だけでなく、(人間の都合による) 通常分娩介助の折にも予防的な投与は有効でしょう。

弊社の顧客農場の数件で試しにおこなっていますが、なかなか手ごたえは良いようです。



誤った分娩介助は子牛と親牛にとってストレスや外傷の原因となるでしょう。

- ・ 介助開始のタイミング
 - ・ 牽引する方向
 - ・ イキミに合わせた牽引
 - ・ 潤滑剤の利用は必須
- などがポイントとなります。

解熱消炎鎮痛剤 メロキシカム製剤

解熱消炎鎮痛剤の1種であるメロキシカム製剤（製品名：メタカム、メロキシリン）は

- ・ 1回投与で2～3日間効果が持続する
- ・ 副作用が少ないので予防的投与も可能

という特徴があり、子牛の下痢症や呼吸器病、分娩直後の母牛への投与による周産期疾病全般の予防・軽減の効果があることをこれまでに紹介してきました。

近年、家畜の「炎症と痛みをコントロールする」ことによる疾病の予防や生産性の改善についての研究が数多くなされており、解熱消炎鎮痛剤のなかでも特にこのメロキシカム製剤の優位点が注目されています。

佐竹

マネージメント情報

※受精卵業務についてお知らせ

新しい受精卵ラボ新建屋がカーフサービスの敷地内に完成しました。

外観と内部を紹介させていただきます。

平屋で30坪弱の大きさですが中はそれなりに工夫されていると思っています。是非一度みなさんにも見ていただきたいと思うのですが、殆どの時間ラボの中に籠もりっきりなので突然来ていただいてもお相手する余裕は当分無さそうです。興味のある方は連絡をしていただければ時間調整をして見学できるようにさせていただきますと思っています。

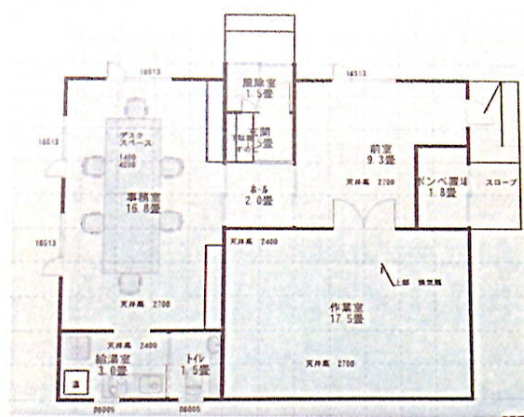
【外観】



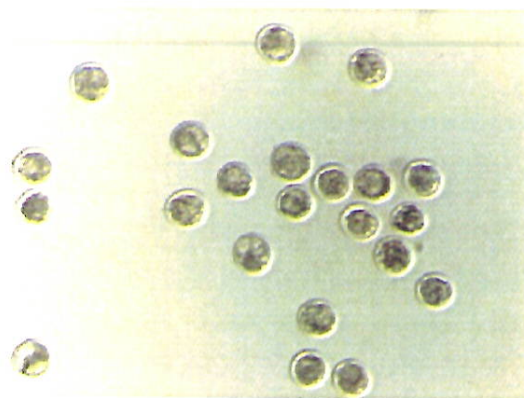
【ラボ内部】



【平面図】



【D6.5の体外胚】



ホルスタイン種、黒毛和牛のゲノム検査が始まり、今までわからなかったことが少しずつ数値で見えるようになってきました。この施設でそれらのデータを元に、様々な視点で、今までとは異なる育種改良と繁殖管理の形を作れるように情報を発信していきたいと考えています。

.....

・みなさん新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。
昨年12月4日に受精卵ラボの引っ越しが終了し、1日の半分以上をラボの方で仕事をするようになりました。基本的には午前中は今までどおり繁殖検診等通常業務をおこない、午後からは体外受精卵の培養の仕事をするという毎日です。

今までとは異なる培養方法で行っているので早く手技に慣れるようにと老眼と闘いながら顕微鏡を覗いています。

過大児等の異常産の無い、母子ともに健康なお産ができる体外胚を作れることを目標にMPアグロからTHMSに転職された栗津さんと二人で日夜頑張っているところです。